





# 新世紀へ羽ばたく



関係者がテープカットとくす玉を割り開港を祝う



富山空港・空港ターミナルビル・県道富山空港線が完成。一番機が新世紀へ向けて出発



初便の機長とスチュワーデスに花束を贈呈



中沖知事が力強く開港宣言



空港エプロンにB727、B737、B767の三機がそろそろ

## 富山空港開港

三月十八日、待ちに待った富山空港が開港し、ジェット機が就航しました。

富山空港は、北陸自動車道、国道41号などの幹線道路に近接し、富山の市街地から約7キロという恵まれた立地条件にあり、正面には立山連峰の雄大な景観が臨め、河川敷を利用した全国的にも珍しい空港として注目されています。

ジェット機が就航したことにより、東京までの所要時間はこれまでの二時間から一時間に大幅短縮。富山・東京間が日帰りビジネス圏になります。

さらに、人や物や情報の交流が活発化することによって、産業、生活、文化、教育、観光などあらゆる分野に活力がみなぎるものと期待されています。

三月十八日には、中沖知事をはじめ約二百人の関係者が出席し、盛大な開港式が行われ、中沖知事が開港を宣言。また、富山空港の完成にとまない、空港ターミナルビルや県道富山空港線も富山の空の玄関口にふさわしいものに一新され、富山県のイメージアップにつながるものと期待されています。

新しくなった富山空港と富山空港ターミナルビル、県道富山空港線を写真を中心に紹介します。





中央ホールに設置されている“水のオブジェ”



新空港にふさわしく、充実した機能をもつ空港ターミナルビル



ターミナルビルからは雄大な立山連峰が一望



テープカットを行う中沖知事ら



やすらぎのコミュニティゾーンとなっている富山県コーナー



揺れもなくゆったりと……体験搭乗



ジェット機の就航で、より新鮮な富山の味が大量に輸送できるようになった



立山連峰を背景に河川を利用した空港から東京に向けて飛びたつB737



ターミナルビルの送迎デッキや右岸堤防は、見学者でいっぱい

### 空港ターミナルビルも一新

新空港にふさわしく、充実した機能を有した富山空港ターミナルビル。

このビルは、旅客ビルと貨物ビルにわかれ、旅客ビルは鉄筋コンクリート造り三階建て。一階には、チェックインロビー、到着ロビー、中央ホール、物産コーナー、案内コーナーなど、二階には、出発ロビー、搭乗待合室、富山県コーナーなど、三階には、送迎デッキ、展望デッ

キなどが設けられています。

特に、二階の「富山県コーナー」は、どこの空港ターミナルビルにも例を見ないもの。「驚きのとやま 感じるとやま 知るとやま」をテーマに、富山県の姿を紹介するスペースで、もう一度富山を訪れたいと感じられるよう、印象あざやかな、やすらぎのコミュニティゾーンとなっています。

また、一階中央ホールには福田繁雄氏のデザインによる「水のオブジェ」が設置されるなど文化性も考慮されています。





つや消しによって山をイメージした高欄



信号や街灯もしゃれていて、電線も地下に埋設された空港道路



山をイメージした空港橋の親柱



剣岳に向かってまっすぐ伸び、植樹帯も備えた空の玄関にふさわしい空港道路



開通を祝い車でパレード

## 空港道路も イメージアップ

富山空港と国道41号を結ぶ県道富山空港線は、富山空港の開港に合わせて、予定より二年早く、三月十四日に開通しました。

この路線は、幅員が二十尺、電線を地下に埋設し、電柱がありません。

また、川をイメージしたモクゲンジとサツキの植樹帯を備え、正面の剣岳に向かって真すぐ伸びています。

熊野川に架かる空港橋は、比較的シンプルな橋で、高欄や親柱に山のイメージをとり入れるなど、郷土の文化性の視点が導入されています。